

聖書日課 『からし種』 2022.10.2-10.9

<p>10月2日 (日) 出エジプト 20章</p>	<p>「銀の神々も銀の神々も造ってはならない」(23節)。モーセの十戒の場面。最初に神が人に最も重要な戒めを伝えたのだと思われる。主なる神だけを礼拝し、人が造ったものを礼拝してはならない。しかし、それが出来ない私たちがいる。十字架の主が私たちに神との和解を示された。ここに愛がある。</p>
<p>3日 (月) 出エジプト 21章</p>	<p>「あなたがヘブライ人である奴隷を買うならば、彼は六年間奴隷として働かねばならないが、七年目には無償で自由の身となることができる」(2節)。これは天地創造で神が六日間でその仕事を完了し、七日目に休まれた事によるのだろう。神が七日目を祝福した事により、奴隷という身分の人をも解放し安息を与えたとと思われる。</p>
<p>4日 (火) 出エジプト 22章</p>	<p>「あなたの豊かな作物と酒ぶねのしたたる汁を出し惜しみしてはならない」(岩波訳28節)。モーセはイスラエルの人々に、神に献げ物をするときは「最善を尽くせ」と語りかけた。あの奴隷の地から導き上ってくださった神の恵みを心に留めていこうと。私たちが神の恵みの応答として、心も体も献げ、献金をする者になりたい。</p>
<p>5日 (水) 出エジプト 23章</p>	<p>「あなたは六日の間、あなたの仕事をを行い、七日目には、仕事をやめねばならない」(12節)。これは安息日の規定である。20章の十戒のところでは、主は天地創造を六日で終え七日目に休まれたから、祝福して聖別されたとあるが、ここではあなたの牛やろばが休み、女奴隷の子や寄留者が元気を回復するため、とある。主の優しさを感じる。</p>

聖書日課 『からし種』 2022.10.2-10.9

<p>6日 (木) 出エジプト 24章</p>	<p>「わたしのもとに登りなさい。山に来て、そこにいなさい。わたしは、彼らを教えるために、教えと戒めを記した石の板をあなたに授ける」(12節)と主はモーセに語られた。彼はヨシュアと共に立ち上がったが、一人で神の山に登った。神はモーセにひとりで来る事を求めた。神に従うことを求められたとき、神は私たちにもひとりで立つ事を要求するのだろう。</p>
<p>7日 (金) 出エジプト 25章</p>	<p>「純金で内側も外側も覆い、周囲に金の飾り縁を作る」(11節)。これは主がモーセに命じた言葉。材料はアカシア材で箱を作り、これに内も外も純金で覆うようにとのことであった。ここには神が二枚の石に刻まれた十戒の言葉が収められていた。これはユダヤ人にとって一番大切なものだろう。私たちの信仰も純粋な金で覆われる必要があるのかもしれない。</p>
<p>8日 (土) 出エジプト 26章</p>	<p>「その垂れ幕の奥に掟の箱を置く。この垂れ幕はあなたたちに対して聖所と至聖所とを分けるものとなる」(33節)。神がやどるとされる臨在の幕屋に入り、祭壇に近づくことができるアロンとその子ら(祭司)は、決められた祭服を着ていれば祭壇に近づいても死を招くことがないとされている(28章43節)。神に仕えるとは命がけの重さがあったようだ。</p>
<p>9日 (日) 出エジプト 27章</p>	<p>「常夜灯は臨在の幕屋にある掟の箱を隔てる垂れ幕の手前に置き、アロンとその子らが、主の御前に、夕暮れから夜明けまで守る」(21節)。祭司は常夜灯のともし火を守る役目をいただいた。主ご自身が「まどろむことなく、眠ることなく」(詩編 121:4)彼らを見守ってくださるから。今も世界の深い闇の中に、主のまなざしを覚える役割を私たちはいただいている。</p>